

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版
		Page 1 / 43

検査前手順書 (2012)

検体採取マニュアル

第24版

文書番号 : QMS5.4-1

岡山大学病院 臨床検査部門

作成者	古川 雅規
審査者	池田 亮
承認者	池田 亮
文書管理者	池田 亮

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 2 / 43
検体採取マニュアル(2012)		

目次

1. 検体採取マニュアル利用にあたって.....	3
2. 検査項目について.....	3
3. 検査依頼方法.....	3
4. 検査項目に関する情報.....	6
5. 採取前の検体準備.....	7
6. 検体の採取.....	7
7. 検体の搬送.....	12
8. 検査後の検体保管.....	16
9. 結果の報告.....	17
10. 追加・再検査.....	17
11. 個人情報の保護に関する検査室の方針.....	19
12. 問い合わせ先.....	19
13. 関連文書.....	19
14. 改版履歴.....	20

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 3 / 43

1. 検体採取マニュアル利用にあたって

検体採取を行うすべての要員は、本検体採取マニュアルによる教育を受け、内容を把握していなければなりません。

検査部技師長は、本検体採取マニュアルを病棟スタッフステーション・外来診療室・中央採血室に配付または検査部・輸血部ホームページにアップし、「QMS4.3-1 文書管理規定書」に従い管理します。

本検体採取マニュアルは、検体採取マニュアル、院内検査項目リスト、院内検査採取容器一覧、微生物検査採取容器一覧より構成されます。

2. 検査項目について

臨床検査部門にて実施している検査項目は、「院内検査項目リスト」に記載されています。当検査部より外部委託して実施する検査項目については、MUSCAT オーダ画面の検査項目名（または、MUSCAT INFORMATION > 部門情報 > 検査部・輸血部 > 検査部・輸血部のページ > 検査項目一覧 > 検査項目名）に続いて外注業者名が記載されています。

3. 検査依頼方法

○ 通常の依頼

MUSCAT INFORMATION > 医療情報部 > システム Q&A 内の操作マニュアルを参照して下さい。

検査依頼時における注意事項

- ①検査オーダ画面で検査ラベルの出力先（自科あるいは中央採血室）を必ず指定してください。
- ②依頼紙が必要な項目はオーダ画面にその旨が表示されています。依頼紙は中央採血室、もしくは生化学検査室に置いています。
- ③患者の同意が必要な検査に関しては、必ず同意書を取得してください。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 4 / 43

○ 針刺し事故後の検査依頼方法

MUSCAT INFORMATION > 感染防御部 > 4.職業感染対策 > (1) 針刺し切創・皮膚粘膜汚染を参照してください。

※針刺し事故用検査は MUSCAT>ナビゲーションマップ>検査>針刺し事故検査
>通常時間内針刺し事故検査/夜間・休日緊急針刺し事故検査よりオーダーしてください。

○ オーダリングシステムがダウンした場合

【検査部/検体検査】

1. 各部署の医療端末上にある「41_電算機停止時の部門への依頼用紙」のフォルダ内の「3_検査部依頼伝票」から「02_検体検査.xlsm」を選択して下さい。
2. ファイルを開き、[読み取り専用]をクリックして下さい。
3. 1 ページ目検査室提出用の各入力欄口を、キー入力して下さい。
4. ドロップダウンリストが表示される入力欄は、リストから選択入力して下さい。
5. 材料、部位および項目チェック欄は、マウスをダブルクリックするとチェックマークが入り、もう一度ダブルクリックするとチェックマークは消去されます。
6. 1 ページ目検査室提出用の入力が終了後、右上 [印刷] ボタンをクリックすると、検査室提出用、診療科控え用、外来・入院係提出用の3枚が印刷されます。
7. ファイルを閉じる際は、[変更内容を保存しますか?]に対して[保存しない]をクリックしてください。
8. 検査室提出用、外来・入院係提出用は、それぞれの部署に提出してください。
9. 検査室提出用は、必ず検体と一緒に検査室へ提出してください。

【検査部/生理検査】

1. 各部署の医療端末上にある「41_電算機停止時の部門への依頼用紙」のフォルダ内の「3_検査部依頼伝票」から「03_生理検査.xlsm」を選択して下さい。
2. ファイルを開き、[読み取り専用]をクリックして下さい。
3. 1 ページ目検査室提出（患者様持参）用の太字枠内を、キー入力して下さい。
4. ドロップダウンリストが表示される入力欄は、リストから選択入力して下さい。
5. 項目チェック欄は、マウスをダブルクリックするとチェックマークが入り、も

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 5 / 43

う一度ダブルクリックするとチェックマークは消去されます。

6. 1 ページ目検査室提出（患者様持参）用の入力終了後、右上[印刷]ボタンをクリックすると、検査室提出（患者様持参）用、診療科控え用、外来・入院係提出（患者様持参）用の3枚が印刷されます。
7. ファイルを閉じる際は、[変更内容を保存しますか?]に対して[保存しない]をクリックしてください。
8. 検査室提出（患者様持参）用と外来・入院係提出（患者様持参）用を、必ず患者様に持たせてください。検査室で回収します。

【夜間・休日緊急検査】

1. 各部署の医療端末上にある「電算機停止時の部門への依頼用紙」のフォルダ内の「3_検査部依頼伝票」から「01_夜間・休日緊急検査依頼伝票.xlsx」を選択して下さい。
2. ファイルを開き、[読み取り専用]をクリックして下さい。
3. 1 ページ目検査室提出用の太字枠内を、キー入力して下さい。
4. ドロップダウンリストが表示される入力欄は、リストから選択入力して下さい。
5. 項目チェック欄は、マウスをダブルクリックするとチェックマークが入り、もう一度ダブルクリックするとチェックマークは消去されます。
6. 1 ページ目検査室提出用の入力終了後、右上[印刷]ボタンをクリックすると、検査室提出用、診療科控え用、外来・入院係提出用の3枚が印刷されます。
7. ファイルを閉じる際は、[変更内容を保存しますか?]に対して[保存しない]をクリックしてください。
8. 検査室提出用、外来・入院係提出用は、それぞれの部署に提出して下さい。
9. 検査室提出用は、必ず検体と一緒に検査室へ提出して下さい。

【超音波診断センター】

1. 各部署の医療端末上にある「電算機停止時の部門への依頼用紙」のフォルダ内の「10_超音波診断センター依頼伝票」から「01_超音波検査.xlsx」を選択して下さい。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 6 / 43

2. ファイルを開き、[読み取り専用]をクリックして下さい。
3. 1 ページ目超音波診断センター提出（患者様持参）用の太字枠内を、キー入力して下さい。
4. ドロップダウンリストが表示される入力欄は、リストから選択入力して下さい。
5. 項目チェック欄は、マウスをダブルクリックするとチェックマークが入り、もう一度ダブルクリックするとチェックマークは消去されます。
6. 1 ページ目超音波診断センター提出（患者様持参）用の入力が終了後、右上[印刷]ボタンをクリックすると超音波診断センター提出（患者様持参）用、診療科控え用、外来・入院係提出（患者様持参）用の3枚が印刷されます。
7. ファイルを閉じる際は、[変更内容を保存しますか?]に対して[保存しない]をクリックして下さい。
8. 超音波診断センター提出（患者様持参）用と外来・入院係提出（患者様持参）用を、必ず患者様に持たせてください。超音波診断センターで回収します。

【輸血部】

各部署の医療端末上にある「41_電算機停止時の部門への依頼用紙」のフォルダ内の「2_輸血検査、血液製剤」から「01_システムダウン時依頼伝票(輸血検査).xlsm」を印刷し、必要事項を記入して検体とともに提出してください。検体には必ず診療科名、外来・病棟名、ID、患者名を明記してください。

【病理部】

各部署の医療端末上にある「41_電算機停止時の部門への依頼用紙」のフォルダ内の「11_病理部依頼票」から術中迅速病理組織診細胞診依頼票（システムダウン時限定仕様）.xlsx」を印刷し、必要事項を記入して検体とともに提出してください。検体には必ず診療科名、外来・病棟名、ID、患者名を明記してください。

4. 検査項目に関する情報

検査項目の意義・測定法・基準範囲・関連項目・採取/搬送条件等の情報は「MUSCAT INFORMATION > 部門情報 > 検査部・輸血部 > 検査部・輸血部のページ > 検査項目一覧、および生理検査情報」の各検査項目をご覧ください。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 7 / 43

また、院内検査項目の一覧、および生理検査の基準範囲等の情報は、「院内検査項目リスト」に掲載しています。

5. 採取前の検体準備

オーダーリングシステムより出力された検体ラベルの内容は以下のとおりです。

検体ラベルの記載内容

採取容器／検査分類／提出先（検査室名）／採取予定時刻／検査予定日 ¹⁾ ● ²⁾ 検体材料／採取量／依頼コメント ³⁾ 患者名／生年月日／患者番号／診療科／外来・病棟 (記号あるいは文字) ⁴⁾
--

- 1) 検査ラベルの使用期限は、検査予定日から1週間です。
- 2) ●印が印字されている場合、MUSCATの患者プロフィール上の「感染」項目のいずれかに陽性があることを示します。
- 3) 依頼コメントが入力されている場合に表示されます。(至急・GID等)
- 4) ラベル左下に記号あるいは文字は、検査室で使用する付加情報です。
 - ・ 保存条件等検体に関する情報は各検査室にお問合せください。

6. 検体の採取

- 血液採取：MUSCAT INFORMATION > 感染防御部 > 1. 予防策 > (11) 採血を参照
- 採血管の使用順序（真空採血の場合）
 - ① 血清分離剤入り採血管（茶）
 - ② 凝固線溶検査用クエン酸入り採血管（黒）
 - ③ ヘパリン入り採血管（黄緑）
 - ④ EDTA入り採血管（赤）
 - ⑤ 血糖採血管（灰）
 - ⑥ その他

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 8 / 43

○ 採血時期

早朝空腹時の採血が望ましいとされています。また、朝食の3~4時間後には早朝空腹時と近似した値を示すとされています。

採血前の激しい運動は検査結果に影響を与える場合があります。

採血時期に指定がある場合はそれに従ってください。(食後血糖・負荷検査など)

○ 検体採取における注意事項

- ・ 検体には必ず検査ラベルを貼付してください。
- ・ 採血量の関係で、1枚のラベルに対し、検体を複数本提出する場合、2本目以降の採血管にはラベルを再出力して貼付するか、患者氏名・患者ID等を記入の上、提出してください。無記名の検体は受け取りません。
- ・ 量不足の場合、再採取をお願いしなければいけないこともあるため、ラベルに記載されている量を採取してください。時間制限、温度制限がある項目はそれに従って提出をお願いします。
- ・ 検体ラベルや採取容器外側に血液等が付着した場合は、ウェットティッシュ等で拭きとった後に提出してください。

➤ 血小板凝集能検査

採血準備

採血管：専用採血管（黒・クエン酸 4.5mL）2本。

採血針：21G針以上。

採血時間：空腹時採血（昼食前）。

対照検体：正常対照検体が必要です。患者の採血時に同時に、同様の手技で採血を行ってください。

採取手順：

採血後は速やかに、優しく転倒混和を5回以上実施してください。

患者検体、対照検体の2本を輪ゴムでまとめて、速やかに提出してください。

（メッセージャー便不可。）（室温）

ラベルに採血時間を記載し、特に対照検体は明確にわかるように区別する。

➤ 尿採取

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 9 / 43

< 随時尿 >

排尿の最初及び最後の部分は捨て、中間尿のみを採取してください。なお、中央採尿室で採尿する場合は、尿カップの25mLのメモリまで入れてください。

生理中の検査は適切ではありませんが、やむを得ない場合、その旨を明記してください。

< クレアチンクリアランス (Ccr) >

MUSCAT INFORMATION > 部門情報 > 検査部・輸血部 > 検査部・輸血部のページの検査項目一覧「Ccr」の項を参照してください。

※スピッツで提出する場合、充分攪拌した後分注してください。

➤ 精液採取

マスターベーションによる採取を原則とし、全量を採取する。

➤ 血液ガス (動脈血)

採取手順

- ① 肘内側の動脈の拍動を確認する。
- ② 穿刺部位をアルコール綿で消毒する。
- ③ 採血する量に合わせてあらかじめ吸子を引く。
- ④ 針が真っ直ぐ取り付けられていることを確認し、針保護筒を真っ直ぐ引いて外す。
- ⑤ 90度前後の角度で動脈に穿刺する。
- ⑥ 動脈に刺さると血液が上がってくるので、吸子を引いた分まで採血する。
- ⑦ 採血が終わったら針を抜き、穿刺部位をアルコール綿で30～60秒間強く圧迫し止血する。
- ⑧ 親指で羽根部分を針方向にカチッと鳴るまでスライドさせ、セーフガードをロックする。
- ⑨ セーフガード部分を片手に持ち、もう一方の手で外筒の柄の部分をつねりながら外す。
- ⑩ 外筒をしっかり持ち、45度ひねりながらしっかりとチップキャップを押し込む。
- ⑪ シリンジ内に気泡があれば、軽く指で叩き、筒先に気泡を集める。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 10 / 43

気泡が完全に除去され、抵抗感が得られるまで吸子を押し、チップキャップ内に血液を充填する。

(気泡抜きはチップキャップを上に向けた状態で行う)

※採血した血液に気泡が入るとデータの誤差要因となるため注意する。

<吸引タイプの場合>

- ① 採血する前に吸子部分をできる限り先端に押し込む。その後Aラインの活栓部分にしっかり挿入する。
- ② 目的とする採血量までゆっくり吸引し、採血終了後、活栓部分から取り外す。
- ③ 付属のチップを用意して、45度程度ねじりながら装着する。
- ④ 外筒部分を軽く指ではじいて気泡を上部に集める。
- ⑤ 気泡が完全に除去され、抵抗感が得られるまで吸子を押し、チップキャップ内に血液を充填する。(気泡抜きはチップキャップを上に向けた状態で行う)

※採血した血液に気泡が入るとデータの誤差要因となるため注意する。

➤ 呼気ガス: MUSCAT INFORMATION > 部門情報 > 検査部・輸血部 > 検査部・輸血部のページの検査項目一覧「尿素呼気試験」の項を参照してください。

➤ 便Hb

専用キット中の説明書に従ってください。

専用容器に氏名、採便日等を記入し、提出用の袋に入れ速やかに提出してください。一時保存する場合は冷暗所をお願いします。

➤ 微生物検体

<喀痰>

採取手順

- ① 歯磨きをする。
- ② 水でうがいをする(うがい薬は使用しない)。
- ③ 唾液がなるべく入らないように、採取する(ティッシュなどに包まない)。
- ④ すぐに提出できない場合は冷蔵保存する。

検体は膿性痰が理想的で、唾液状の痰は起炎菌の検出率が低くなります。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 11 / 43
検体採取マニュアル(2012)		

採取時期は、早朝起床時が最も良質な喀痰を採取しやすいとされています。

<尿>

男性：中間尿

採取手順

- ① 手を洗う。
- ② 尿道口を水、温水、または石鹸水に浸した脱脂綿、ガーゼなどでよく拭く。
- ③ 採尿コップの内側を触れないように持ち、出始めの尿を便器に排出した後、途中からの尿をコップに採る。終わりの尿はコップに採らずに排尿する。

女性：カテーテル尿（適切な手順で採取されていれば、中間尿でも差し支えない）

<便>

トイレットペーパー等を敷いてその上に便をし、採取してください。また、
膿・粘血便の場合は膿・粘血部から採取してください。

液体性状等の確認のため、できる限り自然排便で採取してください。

➤ 穿刺液

<髄液・胸水・腹水・心嚢液・CAPD 排液・肺胞洗浄液・関節液>

穿刺液採取後、専用容器に入れて、該当検査室へ提出してください。

細胞数に関しては可能な限り迅速に提出をお願いします。

検査内容によって必要検体量、保存の可否、保存条件などが異なるため、
ラベルに記載されている検体量を採取できない場合、また、すぐに提出できない
場合は、該当検査室にご相談ください。

➤ 病理部検体

● 細胞診検体

<体腔液（胸水、腹水、心嚢液）>

ヘパリンを入れない状態で、採取後、可能な限り迅速に細胞診受付に提出してくだ
さい。

すぐに提出できない場合は冷蔵保存してください（保存期間は2日間です。2日を
超える場合は病理部か、業務時間外は夜間・休日緊急検査室にご相談下さい）。

検体容器は、シリンジ（ただし、注射針は外してキャップに替えてください）、ス
ピッツ、投薬瓶など清潔なものであれば、提出可能です。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 12 / 43

<尿、喀痰>

他の検体検査手順と同様に行ってください。

- 病理組織検体

採取後、速やかに10%中性緩衝ホルマリンに浸漬した後、病理部受付に提出してください。

組織の大きさに合わせた容器であれば、特に指定はありません。

- 術中迅速組織検体

組織の乾燥に注意し、蓋のできる容器に入れて速やかに病理迅速検査室へ提出してください。

生食に浸漬した状態での提出は、組織変性を招きますので控えてください。

- 悪性腫瘍（固形腫瘍）遺伝子検体

- AmoyDx 肺癌マルチ遺伝子 PCR パネル検査検体

<新鮮凍結組織>

採取後、スタンプ標本で腫瘍細胞の存在を確認したのち、採取容器に入れてその場で液体窒素を用いて凍結させ保存する。

<FFPE 組織>

病理組織検体に準ずる。

7. 検体の搬送

1) 適用範囲

各部署および中央採血室から、検査部・輸血部・病理部までの検体搬送業務全般（出発から到着までの間）について適用します。

2) 検査室業務時間（検体受付時間）と場所

【検査部/生化学・血液・遺伝子・ゲノム融合推進検査室】

業務時間 8:30～17:15

検体受付時間 8:30～16:30

場所 生化学検査室（総合診療棟西3階）、血液検査室（総合診療棟西2階）、
遺伝子・ゲノム融合推進検査室（中央診療棟3階）

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 13 / 43

【検査部/一般検査室】

業務時間 8:30~17:15

検尿トイレ提出時間 7:30~16:30 (検尿トイレ窓口対応 8:00~16:30)

検体受付時間 8:30~16:30

場所 中央診療棟2階

【検査部/微生物検査室】 ※連休時の時間については別途お知らせいたします。

業務時間 (平日・土曜日) 8:30~17:15

(日曜および祝日) 8:30~12:30

検体受付時間 (平日) 8:30~16:00 (16時以降、至急の場合は電話連絡後対応)

(土曜日) 8:30~16:00 (16時以降、緊急検査室で預かり対応)

(日曜日・祝日) 8:30~11:00 (11時以降、緊急検査室で預かり対応)

場所 総合診療棟西5階

【輸血部】

業務時間 8:30~17:15

検体受付時間 8:30~15:00 (赤血球製剤の準備を伴う検体は12時までに提出をお願いします。15時以降の提出について、緊急時は電話連絡後対応)

場所 総合診療棟西3階

【病理部/病理迅速検査室・細胞診受付】

業務時間 8:30~17:15

細胞診:検体受付時間 8:30~17:00 (16時以降の提出については事前に電話連絡(細胞診6775)をお願いします)

迅速検査:検体受付時間 8:30~17:00 (17時以降の提出については事前に電話連絡をお願いします。)

検体受付時間 8:30~16:00(16時以降の提出については電話連絡(細胞診6775)をお願いします)

場所 総合診療棟東2階

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
		第24版 Page 14 / 43

【病理部/病理組織受付】

業務時間 8:30~17:15

検体受付時間 24時間対応 (パスボックス)

場所 中央診療棟2階 (中央採血室の裏)

【夜間・休日緊急検査室 (生化学検査室)】

日勤帯 (業務時間/検体受取時間) 8:30~17:15

宿直帯 (業務時間/検体受取時間) 16:30~8:30

場所 総合診療棟西3階 (生化学検査室)

【輸血部当直】

日勤帯 (業務時間/検体受取時間) 8:30~17:15

宿直帯 (業務時間/検体受取時間) 17:15~8:30

場所 総合診療棟西3階 (輸血部)

3) 検体搬送担当者

基本的に委託先メッセージャーが担当しますが、医師、看護師、その他の職種も含まれます。ただし、中央採血室で採取した検査部への検体については、各検査室職員および委託先メッセージャーが担当します。

4) 検体搬送条件

○検体の搬送先を間違えないよう注意し、検体ラベルの「提出先 (検査室名)」に従ってください。搬送先を間違えた場合、結果報告遅延や、検体の再採血を依頼する可能性があります。

○搬送条件のある検体 (氷冷、直ちに提出等) は、指示に従って提出してください。なお、搬送条件のある検体に該当する項目は、院内検査項目リストに記載しています。

○検体検査全般に関する検体受付時の確認事項

- 1) 正しい検査ラベルが貼付されている。また、採血量の関係で、1枚のラベルに対し、検体を複数本提出する場合、2本目以降の採血管には再出力されたラベルが貼付されているか、患者氏名・患者ID等が記入されている。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 15 / 43

- 2) 検体の破損、材料の漏れ等がなく、キャップがしっかり閉まっている。
- 3) 規定の採取容器に検体が採取されている。
- 4) 抗凝固剤入り採血管は検体が凝固していない。
- 5) 検体採取量が測定可能範囲内である。
- 6) 凝固線溶および血沈用検体は規定量採血されている。
- 7) 検体の保存状態の確認（検体搬送条件がある場合、それを満たしているか）。

➤ 一般検査室受入れ不可基準

中央採血室で受け取った蓄尿バックは、搬送担当者が一般検査室へ搬送し、一般検査室にて尿量測定しスピッツへ分注後、搬送担当者が「提出先」へ搬送します。

<尿定性>

固形材料、粘性のある検体

<尿中有形成分>

強度の血尿、膿尿、随時尿以外の検体。固形物、浮遊物が認められる検体、粘性の高い検体

<穿刺液>

粘性の高い検体、凝固検体

<便 Hb>

保存条件（4℃で1週間保存可能）以外で保存されていた検体

<精液>

精液以外の検体

精液に関しては、1時間以内に持参可能な場所で採取してください。また、採取した検体は室温～37℃の範囲内に保温した状態で搬送をお願いします。

<妊娠反応（尿中 HCG）>

随時尿以外の検体。固形物、粘性、凝血塊、うみ等が認められる検体。

<関節液検査>

凝固検体、固形材料検体、抗凝固剤（EDTA）を加えた検体、凍結検体

➤ 微生物検査室受入れ不可基準

検査に適した検体量が十分確保出来ない

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 16 / 43

便を除く培養検査が滅菌スピッツで採取されていない
嫌気培養を実施する際に嫌気ポーターで採取されていない

➤ 病理部受入れ不可基準

<組織検査>

ピンセットでつまめない組織、患者がプリオン病の場合（プリオン病の場合は解剖も標本作製は外注に委託）

<細胞診検査>

プリオン病患者の脳脊髄液（プリオン病を否定してから検体提出をお願いします）

<迅速組織検査>

患者が結核（疑いを含む）

結核の疑いがある場合は、まず電話（6775）でご相談ください。95%エタノールとスライドガラスをお渡ししますので、手術室のベットサイドにて、術者が細胞をタッチ標本で塗抹し、95%エタノールにて固定してください。その後、迅速組織検査室までご提出ください。腫瘍細胞の有無を確認した後、迅速組織検査が可能かどうか病理医が判断します。

➤ 生理検査室・超音波診断センター受け入れ不可基準

- ・ 同意が得られない患者
- ・ 開放性結核あるいは結核、COVID-19 など強い感染が疑われる患者は受け入れない。
また、MRSA などの感染患者はその日の最後に行く。
- ・ 肺機能検査、超音波検査はストレッチャーを使用しても検査室に来ることが難しい場合。（心臓超音波、末梢血管超音波については、集中治療病棟は往診にて検査可能。）
- ・ 脳波検査については、COVID-19 陽性者または濃厚接触者をやむをえず検査する場合、その患者に適した PPE を着用し往診にて検査を行う。
- ・ 超音波検査と同日に核医学検査を施行した患者。（検査者の被曝影響の為。）

8. 検査後の検体保管

検査結果報告後の検体保管は以下のとおりです。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 17 / 43
検体採取マニュアル(2012)		

- ・ 生化学・免疫検査：6日間（冷蔵保存）
- ・ 凝固検査：検査当日まで（冷蔵保存）
- ・ 血液検査：結果報告日の翌日まで（室温保存）
- ・ 穿刺細胞数：検査当日まで（室温保存）
- ・ 微生物検査：到着日を含め5日間（冷蔵保存）
ただし、抗酸菌の検体については2週間（冷蔵保存）
- ・ 一般検査：検査日含め2日間（冷蔵保存）
- ・ 輸血検査：1週間（冷蔵保存）
- ・ 夜間・休日緊急検査：1週間（冷蔵保存）
- ・ 遺伝子検査：1週間（冷蔵保存）、核酸1年（凍結保存）
- ・ 病理組織検査：残部組織は検査後3ヶ月。FFPEは永久保存。ガラス標本は20年保存、その後順次廃棄。
- ・ 細胞診検査：診断確定後廃棄。ガラス標本は10年保存。
- ・ 術中迅速検査：ホルマリン固定後パラフィンブロックとして永久保存。ガラス標本は5年保存。その後順次廃棄。
- ・ 関節液結晶検査：採取日含め3日間（冷蔵保存）

9. 結果の報告

検査結果は所要時間内に診療端末へ送信されます。所要時間は「院内検査項目リスト」を参照してください。所要時間を超過する場合は、「機器等トラブルによる至急結果出力不能時の連絡体制」（文書番号：QMS5.8-1）にそって対応します。

10. 追加・再検査

○ 追加検査

- ① 検査担当部署に電話連絡し、患者ID、患者氏名、および追加依頼項目を伝えてください。担当部署は検体量、採取採血管・材料が正しいかを確認します。担当部署が検査可能と判断した場合は追加依頼が可能です。追加検査が出来ないと判断した場合は、新たに採血を行い検査ラベルを貼付して提出してください。
 - ・ 保存検体の場合は、濃縮の影響もあります。
 - ・ 輸血検査への追加依頼時は輸血部への検査ラベルの提出が必要です。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	文書番号 QMS5.4-1	第24版 Page 18 / 43
検体採取マニュアル(2012)		

- ・ 追加検査可能な期間(検体採取～測定までの検査可能な時間)は以下のとおりです
ので予めご確認ください。

➤ 追加検査可能期間

- ✓ 生化学・免疫検査:検査項目により異なりますので生化学検査室に問い合わせ
てください。
- ✓ 血液検査:検査項目により異なるので血液検査室に問い合わせして下さい。
- ✓ 微生物検査:検体を用いた追加検査は当日中。菌株を用いた追加検査は菌
株保管期間内。
- ✓ 一般検査:4時間以内(4時間以降は参考値)
- ✓ 輸血部:当日中

ただし、要望があればこの限りではありませんので、各検査室にお問合せください。

- ② MUSCAT で追加オーダーを入力しラベル発行を行います。
 - ③ ラベル発行を行うことで医事システム(外来のみ)および検査システムに情報が伝達
されます。
 - ④ 追加オーダーされたオーダー番号を、各検査室に連絡してください。各検査室でオーダ
を確認後、検査ラベルを出力します。(発行したラベルは必要ありません)
- ・ **輸血検査は輸血部への検査ラベルの提出が必要です。**
- ⑤ 検査部/輸血部で受付して検査を実施します。

○ 再検査

- ① 検査担当部署に電話連絡し、患者 ID、患者氏名、および再検査依頼項目を伝えて
ください。検体量が十分確保できている場合は、再検査を実施します。
 - ② 再検査項目に「再検査済」または「修正結果」のコメントを付けて報告します。(先に他
のコメントが付いている場合はフリーコメント欄に記載します)
- ・ 検体不良により再検査が必要な場合は、検査室から診療科へ連絡します。
検体の再採取が可能な場合は、検査ラベルを再発行して検体容器に貼るか、
患者 ID、診療科名、患者氏名を検体容器に明記して再提出してください。再
採取不可能の場合でコストが発生している際は、医事課にコストフリーの連
絡をお願いします。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 19 / 43

11. 個人情報の保護に関する検査室の方針

当臨床検査部門は、臨床検査の受託において知り得た個人情報について、守秘義務を遵守し正当な理由無く他者と共有しない。また、部外者に閲覧されることが無いように個人情報の保護に努める。

12. 問い合わせ先

- ・ 生化学検査室：7667、7668、7669
- ・ 血液検査室：7674、6476
- ・ 一般検査室：7675
- ・ 微生物検査室：7673
- ・ 遺伝子・ゲノム融合推進検査室：7666（遺伝子）、7573（ゲノム）
- ・ 心電図検査室：7672
- ・ 肺機能検査室：7678
- ・ 脳波・筋電図検査室：7677
- ・ 超音波診断センター：6526（受付）、6528、7676（解析室）
- ・ 中央採血室：7615
- ・ 輸血部：7768、7769
- ・ 病理部：7691（病理組織受付）、6775（迅速検査・細胞診受付）
- ・ 夜間・休日緊急検査：7680
- ・ 輸血当直：6971

業務に関するご意見ご質問等がある場合は、各検査室にお問い合わせ下さい。お答えした内容は検査部・輸血部のホームページ上にも公開します。同様に検査部門からのアンケート調査に対する回答もホームページ上に公開します。患者様からのご意見に関する検査部門からの回答は、外来フロアの掲示版をご覧下さい。

13. 関連文書

新中央採血運用マニュアル（文書番号：BDRAW-NON-D1）

MUSCAT INFORMATION

国立大学法人岡山大学職員就業規則

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 20 / 43

国立大学法人岡山大学の保有する個人情報の適切な管理に関する規定
岡山大学病院 職業倫理指針

14. 改版履歴

版数	改版年月日	改版事項
1	使用開始日 2014/07/28	
2	改版 2015/12/18	文章様式変更 承認日、審査日、作成日削除 ヘッダーに作成日追記、文章確認済み署名欄削除
		血液検査室 検体採取マニュアル 7. 検体搬送 2) 検体搬送時間および場所 一部内容変更 検査項目リスト 1 血液学検査、2 リンパ球サブセット検査の JCCLS 共用基準範囲 変更項目の基準値変更 2 リンパ球サブセット検査 一部内容変更、B 検査該当項目を削除 院内採血管 12 番採血管内容を変更
		微生物検査室 微生物試験管 輸送容器名の一部変更、所要時間の削除
		緊急検査室 検査項目リスト JCCLS 共用基準範囲変更項目の基準値変更 分析機 TDX→Architect i1000 に変更 (メトトレキサート)
		遺伝子 検査項目リスト 遺伝子検査項目を一部削除 院内採血管 21 番ラベルの表示の変更
		病理部に関する記述を、検体採取マニュアルと検査項目リストに 追加
		輸血部 検査項目リスト LABScan システムの検査コードを追加 院内採血管

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 21 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p>1 番提出場所を追加</p> <p>生化学検査室 検査項目リスト JCCLS 共用基準範囲変更項目の基準値変更 BM8040 ゴニサミドを追加</p> <p>BM6050 尿アミラーゼ測定法 酵素法→ウリカーゼ-POD 法に修正 Mojular Analitics < EE > E2 基準値変更日 H13.11.1→H27.9.11 に変更 Mojular Analitics<EE> Tg 基準値 32.7 以下→33.7 以下に変更 基準値変更日 H22.12.21→H27.9.11 に変更 AIA-2000 C ペプチド基準値 空腹時血清: 1.1~3.3→0.69~2.45 に変更 基準値変更日 H17.3.28→H27.9.11 に変更 分析機 TDX→Architect i2000 に変更 (メトトレキサート) VIDAS 麻疹 IgG を追加 UBiT-IR300→POCone に変更 その他-免疫電気泳動 試薬 (抗血清) ダコ・ジャパン→株式会社ヘレナ研究所に変更 採血量: 41~60 項目 9mL→8mL に変更 マイクロティナー容器で検査不能な項目: 梅毒 STS 法を削除</p>
3	改版 2016/07/01	<p>名称変更: 検査部/輸血部⇒臨床検査部門 (表紙、ヘッダー、本文中の名称変更)</p> <p>生化学検査室 検査項目リスト: 参考基準範囲変更: 尿アミラーゼ 480 以下 単位変更: 髄液-乳酸・ピルビン酸・総タンパク・アルブミン・免疫グロブリン G・A・M、クロール、尿-免疫グロブリン G を mg/dL に変更。尿-アミラーゼを U/L に変更。尿素呼吸試験をパーミルに変更。 測定方法変更: β2 マイクログロブリン、梅毒 STS 法、エラスターゼ I、尿-β2 マイクログロブリンをラテックス凝集法に変更</p> <p>微生物検査室 微生物試験管: 好気用・嫌気用ボトルの写真を変更 尿採取量の追記 嫌気ポーターの好気性菌・嫌気性菌欄と注意事項の追記 乾燥綿棒・フロックスワブの注意事項を追記</p>

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 22 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p>生理検査室 検査項目リスト： 皮膚灌流圧（SPP）を追記 腎動超音波の測定機器メーカーに株式会社日立製作所を追記</p> <p>緊急検査室 検体採取容器一覧：番号 1. 2. 5. 11. 12. 13 の提出場所に緊急検査を追記</p> <p>検体採取マニュアル 3. 検査依頼方法：オーダーリングシステムがダウンした場合の【検査部】文章を変更、【緊急検査室】を追記 5. 採取前の検体準備：中央採血運用マニュアル(文書番号：LAB-NON-D1)を新中央採血室運用マニュアル(文書番号：BDRAW-NON-D1)に変更。2) の文章を一部変更。 7. 検体の搬送：2) 検体搬送時間および場所に、夜間宿直帯・休日直帯を追記。 8. 検査後の検体保管：緊急検査検体保管期間を2日に変更</p> <p>病理部 検査項目リスト： 細胞診（呼吸器材料、消化器材料、泌尿器材料、体腔液材料、造血器材料、実質臓器材料、軟部組織材料）の所要時間を4日間に変更。</p>
4	2017/10/10	<p>検査項目リスト 参考基準範囲を、「基準範囲または臨床判断値」に統一</p> <p>病理部 修正事項無し</p> <p>遺伝子検査室 検査項目リスト：機器名称 RD-100i、検査項目 CK19mRNA を削除 院内採血管：番号 26、ラベル表示 青/OSNA を削除</p> <p>一般検査室 検査項目リスト：便ヘモグロビン 基準範囲または臨床判断値を100ng/mL 以下（一）に変更、穿刺細胞数検査を追加 院内試験管：番号 16 のラベル表示を専用器に、提出場所を一般に変更</p> <p>生化学検査室 検査項目リスト： 機器更新：Modular Analytcs 〈EE〉 から cobas8000、AIA2000 から AIA-CL2400、LUMIPULS Presto II から LUMIPULSE L2400、Dimension XPAND から Dimension EXL 200 新規の機器：cobas e411</p>

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 23 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p>検査項目の追加、変更：ビタミン B12、葉酸の使用機器が cobas e411 へ変更。NT-proBNP、HTLV-I / II、尿中好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン、マイコプラズマ抗体の新規追加、カンジダ抗原を外注へ、インフルエンザを微生物検査室へ変更、CK19mRNA を中止</p> <p>基準範囲または臨床判断値の変更：コルチゾール、AIA-CL2400 測定項目、HBs 抗原、HBs 抗体、抗 Sm 抗体、抗ミトコンドリア M2 抗体</p> <p>単位の変更：HBs 抗原</p> <p>使用試薬の変更：G-GT、Fe、UIBC</p> <p>測定方法の変更：RF、AIA-CL2400 測定項目</p> <p>マイクロティナー容器で検査不能な項目の追加、変更：PIVKA-II の削除、NSE の追加</p> <p>院内試験管：番号 11 の提出先を微生物へ変更、番号 26 の OSNA 法採血管を削除し、輸血前検体保存用採血管を移動、表示する</p> <p>血液検査室</p> <p>検査項目リスト：穿刺細胞数検査（目視）を一般検査室へ変更</p> <p>院内試験管：試験管番号 16、ラベル表示を穿刺細胞数、提出場を一般に変更</p> <p>生理検査室</p> <p>検査項目リスト：</p> <p>検査項目名の追加：長期脳波ビデオ同時記録検査</p> <p>測定機器メーカーの変更：トレッドミル負荷心電図、心肺運動負荷試験、加算平均心電図</p> <p>所要時間の変更：心肺運動負荷試験、経食道超音波、甲状腺超音波、乳腺超音波</p> <p>微生物検査室</p> <p>検査項目リスト：微生物検査コード No.3 にインフルエンザを追加</p> <p>微生物試験管：容器 3 号の注意事項を追記</p> <p>緊急検査室</p> <p>機器更新：Dimension XPAND から Dimension EXL 200</p> <p>使用試薬の変更：G-GT</p>
5	2017/12/20	<p>生化学検査室 〈検体採取マニュアル〉</p> <p>6. 検体の採取：血液ガス採取手順の変更 〈検査項目リスト〉</p> <p>BM8040：ミオグロビンの追加</p> <p>BM6050：ミオグロビン、梅毒 TPLA の削除</p> <p>cobas 8000：ACTH、GH、ビタミン B12、葉酸の追加</p> <p>cobas e411：項目を全て cobas 8000 へ移動</p>

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 24 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		LUMIPULSE L2400 : TP 抗体を追加 ImmunoCAP250 : 抗 RNP 抗体の基準範囲または臨床診断値等の変更
		遺伝子検査室 〈検査項目リスト〉 造血器腫瘍遺伝子検査 : 試薬に arkray を追加
		緊急検査室 〈検査項目リスト〉 BM6010 : ミオグロビンを追加
6	改版 2018/9/29	遺伝子検査室 〈検体採取マニュアル〉 8. 検査後の検体保管 遺伝子 : 核酸 1 年 (凍結保存) を追加 〈検査項目リスト〉 BCR/ABL RT-PCR を削除 UGT1A1*28, *6 遺伝子多型解析を追加
		血液検査室 〈検体採取マニュアル〉 8. 検査後の検体保管 染色体検査の文面を削除
		一般検査室 〈検体採取マニュアル〉 6. 検体の採取 畜尿について追記 7. 検体の搬送 4) 検体搬送条件 畜尿について追記 〈院内試験管〉 蓄尿バックを追加
		生化学検査室 〈検体採取マニュアル〉 8. 検査後の検体保管 生化学・免疫検査 : 1 週間 (冷蔵保存) に変更 〈院内試験管〉 23、24 番の採取容器の提出場所を微生物に変更 〈検査項目リスト〉 BM8040 : ZTT, TTT を削除 BM6050 : CH50、クレアチニンクリアランスを変更 LUMIPULSE L 2400 : 副甲状腺ホルモン whole を追加 ImmunoCAP250 : 使用試薬を変更
		AES320 : 基準範囲または臨床判断値を変更 GA08 : 髄液糖・尿糖の採取量と基準範囲または臨床判断値を変更 H7010 : ICG の採取量、測定法を変更 CS-5100 : ヘパプラスチンテスト・可溶性フィブリンモノマー複合体を削除、フィブリンモノマー複合体を追加 その他 : LDH アイソザイムを削除、インフリキシマブを追加

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 25 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		マイクロティナー容器で検査不能な項目:TTT、ZTTを削除
		<p>夜間・休日緊急検査室 緊急検査室から夜間・休日緊急検査室に変更 〈検体採取マニュアル〉</p> <p>8.検査後の検体保管 緊急検査:1週間(冷蔵保存)に変更 〈院内採血管〉</p> <p>3、27番の採取容器の提出場所に夜間・休日緊急検査室を追記 〈検査項目リスト〉</p> <p>使用機器の変更: XN-2100、BM8040、ルミパルス L2400、cobas8000、ARCHITECTi2000SR、GA08 BM8040:採取量を変更、血糖を削除 CS-5100:FDPを追加、容器13を追記 ルミパルス L2400:感染症項目の採取量を変更、HBsAgの基準値、TP抗体の基準値、単位を変更 cobas8000:甲状腺刺激ホルモン、遊離トリヨードサイロニン、遊離サイロキシシン T4を追加 ARCHITECTi2000SR:バンコマイシンを追加 GA08:血糖を追加 用手法:検査コードの修正、RSウイルス抗原検査とヒトメタニューモウイルス抗原検査を追加</p>
		<p>微生物検査室 〈検査項目リスト〉</p> <p>微生物検査コード No.3:検査コードを修正、ヒトメタニューモウイルス抗原とマイコプラズマ抗原を追加 〈微生物試験管〉</p> <p>抗酸菌血液培養ボトルを抗酸菌用血液培養ボトル(BD BACTEC Myco/F Lytic Culture Vials)に変更、抗酸菌培養ボトルの採取量を変更</p>
		<p>生理検査室 〈検査項目リスト〉</p> <p>循環器・肺機能:体表面電位図を削除 超音波:頸動脈超音波、下肢動脈超音波、下肢静脈超音波、腎</p>
		動脈超音波について検査コードを修正、その他脈超音波を追加
		<p>病理部 修正事項無し</p>
		<p>輸血部 〈院内採血管〉</p> <p>12番の採血管の提出場所に輸血部を追記</p>

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 26 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<検査項目リスト> Navios EX : CD34 定量を追加
7	改版 2019/3/15	生化学検査室 <検査項目リスト> BM8040: リパーゼの試薬変更に伴い、基準範囲または臨床判断値、測定方法等を変更
8	改版 2019/4/23	生化学検査室 <検査項目リスト> 「生化学検査室」のシート <ul style="list-style-type: none"> ・AIA-CL2400 : 容器に尿 : 9 を追記 ・ARCHITECTi2000 : ジゴキシンを削除 ・ImmunoCAP250→Phadia250 に変更 ・AES320 : 採取量 : 尿 5mL→7mL に変更、容器に尿 : 9 を追記 ・H7010 を削除 ・凝固・線溶検査 (CS-5100) : プラスミノージェンを削除 ・その他 : 免疫電気泳動、インフリキシマブの採取量、容器を追記 ・マイクロティナー (ヘパリン Li 血漿) 容器に関する事項を削除 「E2・Ccr」のシート <ul style="list-style-type: none"> ・E2 の基準値を変更 「アミノ酸」のシート <ul style="list-style-type: none"> ・シートを削除 「その他」のシート <ul style="list-style-type: none"> ・ICG に関する部分 : 削除 <院内採血管> <ul style="list-style-type: none"> ・1 : 茶の容器に微量採血管を追加 ・2 : 黄緑の容器からマイクロティナーを削除 ・14 : 黒 (4.5mL) の提出場所 : 血液→生化学に変更 遺伝子検査室 <検査項目リスト> <ul style="list-style-type: none"> ・「染色体・造血器関連腫瘍遺伝子検査」と「遺伝子」のシートを「遺伝子検査室」に統合 ・造血器腫瘍遺伝子検査の容器番号を 21→5 に変更し、測定方法にキャピラリー電気泳動法、Quenching Probe 法を追記 <院内採血管> <ul style="list-style-type: none"> ・5 : 紫 2Na・紫の提出先に血液を追記 血液検査室 <検査項目リスト> <ul style="list-style-type: none"> ・末梢血液像の基準範囲を変更

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 27 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		一般検査室 〈検査項目リスト〉 ・6. 穿刺細胞数検査(目視法)の採取量(必要量)を200 μ L → 2mL (200 μ L)に変更
		微生物検査室 〈検査項目リスト〉 ・微生物検査コード No.3 迅速検査に水痘・帯状疱疹ウイルス抗原を追加 〈微生物試験官〉 ・スポンジスワブ+抽出液を追加
		夜間休日検査室 〈検査項目リスト〉 ・末梢血液像の基準範囲を変更 ・BM8040の容器番号を2→1に変更(アンモニアは容器番号2で変更無し)
		輸血部・病理部・生理検査室 ・修正事項無し
9	改版 2019/7/16	遺伝子検査室 〈検査項目リスト〉 ・HCV-RNAの所要日数を、「1~2日」→「1~4日」に変更
		血液検査室 〈検査項目リスト〉 ・4. 骨髓像検査のアルカリフォスファターゼ染色を削除
		生化学検査室 〈検査項目リスト〉 BM8040 ・LAP: 試薬メーカーを和光純薬→富士フィルム和光純薬に変更
		生化学検査室 〈検査項目リスト〉 BM8040 ・ゾニサミド: 試薬メーカーをリブリアゾニサミド→SB バイオサイエンスに変更 BM6050 ・RF: 基準範囲<16→ \leq 15に変更 ・Hp: 基準範囲 17~169→19~170に変更 ・CH50、尿総蛋白、髄液総蛋白: 試薬メーカーを和光純薬→富士フィルム和光純薬に変更 Phadia250 ・抗 ds-DNA IgG 抗体: 単位を U/mL→IU/mLに変更 ・抗 GBM 抗体: 単位を IU/mL→U/mLに変更 AES320→エパライザ 2 ジュニアに変更に伴い、蛋白分画の基準値、試薬、所要時間を変更

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 28 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p>GA08</p> <ul style="list-style-type: none"> ・髄液糖：基準範囲を 40～75 に設定 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免疫電気泳動：エパライザ 2 ジュニアへ移行 <p>病理部</p> <p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6. 検体の採取の病理部検体（細胞診検体、病理組織検体） 搬送容器について追記 ・7. 検体の搬送の 2) 検体搬送時間および場所 細胞診検体受付時間について追記 <p>〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「病理部」のシートに、搬送容器に関する注意文を追記 <p>微生物検査室・一般検査室・生理検査室・輸血部・夜間休日検査室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修正事項無し <p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3. 検査依頼方法の○針刺し事故後の検査依頼方法 「6.針刺し・血液汚染対策実施要綱」→4.職業感染対策 > (1) 針刺し切創・皮膚粘膜汚染に変更 ・6. 採取前の検体準備の○外来・病棟 岡山大学病院医学部・歯学部看護手順「検査：採血」→MUSCAT お助けナース内 > 2. 看護手順に関する事 > 1) 岡山大学病院看護手順 > 10.症状・生体機能管理技術に変更 <p>〈検体採取マニュアル〉</p> <p>6. 検体の採取の○血液採取 17 採血方法→11 採血に変更</p>
10	改版 2019/11/1	<p>生化学検査室</p> <p>〈検査項目リスト〉</p> <p>BM8040・BM6050 共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試薬メーカーについて、協和メディックス→日立化成ダイアグノスティックス・システムズに変更、三菱化学メディエンス→LSI メディエンスに変更 <p>BM8040</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IgG サブクラス IgG4 を院内にて検査開始 ・総胆汁酸（TBA）の基準範囲または臨床判断値について、「<10」→「10以下」に変更 <p>Cobas8000</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インスリン様成長因子 I を院内にて検査開始 <p>血液検査室</p> <p>〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白血球分類の基準範囲または臨床判断値について、好酸球（EO）を 0.0～8.5 に変更

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 29 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5. 採取前の検体準備>検体ラベルの記載内容について、年齢→生年月日に変更、採取予定時刻を追加（2019年10月30日ラベル発行分から）
11	改版 2019/11/29	<p>生化学検査室 〈検査項目リスト〉</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免疫電気泳動を削除（エパライザ2ジュニアへ移行） ・インフリキシマブの院内検査中止に伴い削除
		<p>輸血部 〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測定機器名を Auto Vue から ORTHO VISION MAX に変更
12	改版 2020/08/17	<p>生化学検査室 〈検査項目リスト〉</p> <p>β-D グルカン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査機器をトキシノメーターから ES アナライザーに変更。それに伴う検査内容の変更 <p>LUMIPULSE2400</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可用性インターロイキン-2 レセプターを追加 <p>凝固線溶（CS-5100）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備考欄に FMC、ATⅢの開始日を追記
		<p>生化学検査室 〈検査項目リスト〉</p> <p>BM8040</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LD・ALP について測定原理が JSCC 標準化対応法から IFCC 標準化対応法に変更、それに伴い ALP の表示が IFCC 標準化対応法の ALP_IFCC と ALP（カンザン）の2つとなり、LD の表示は LD（IFCC）となる ・レムナント様リポ蛋白コレステロールの削除 <p>BM6050</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿-アミラーゼ、アルベカシンの削除 <p>Smart Gene</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他：マイコプラズマ抗体を削除、Smart Gene:マイコプラズマ核酸定性を追加 <p>〈院内検査採取容器一覧〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器番号 30 に専用容器マイコ核酸を追加
		<p>血液検査室 〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6. 検体採取に血小板凝集機能検査の検体採取手順を追加 <p>〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADVIA2120→ADVIA2120i に修正 <p>〈院内項目採取容器一覧〉</p>

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 30 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<ul style="list-style-type: none"> 番号14(黒4.5ml)の提出場所に血液検査室を追加
		<p>微生物検査室</p> <p>〈微生物検査採取容器一覧〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 一覧表の形式を変更して容器番号を付与 容器番号5「PPスクリュープラス」→「KRスクリュースピッツ」に名称変更、7「乾燥綿棒」→「乾燥綿棒 咽頭用」に、11「スポンジスワブ、抽出液」→「VZV抗原検査採取キット」に変更 容器番号9「乾燥綿棒 小児鼻腔用」、10「インフルエンザ抗原検査採取キット」、12「汎用輸送培地」、13「SARS-Cov-2抗原検査採取キット」を追加 <p>〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 試薬メーカー名、検査方法を追加し一覧表の形式を変更 1. 一般検査、2. 真菌検査、3. 抗酸菌検査の検査コードをJlacに準じた番号へ変更 容器種別を容器名称から容器番号に変更 <p>〈院内検査採取容器一覧〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 容器番号23、24、ラベル表示 専用/STD核酸を削除
		<p>病理部</p> <ul style="list-style-type: none"> 検体の採取>○病理部検体に追記
		<p>生理検査室</p> <p>〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査コードを一部変更
		<p>遺伝子検査室</p> <p>〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 遺伝子検査にSARS-CoV-2核酸検査を追加 <p>〈院内検査採取容器一覧〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 容器番号29に専用容器/nCoVを追加
		<p>一般検査室</p> <p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 6. 検体の採取>○尿採取<随時尿>に注意事項を追記 <p>〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. 便へモグロビンの所要時間を30~60分→60分以内に変更
		<p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 5. 採血前の検体準備>外来・病棟以下を変更 7.2) 検体搬送時間および場所→検査室業務時間(検体受付時間)と場所に変更し内容も修正 7.4) 検体搬送条件に検体受入れ不可基準を追記 11 問い合わせ先を追加

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 31 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 11. 関連文書→12. 関連文書に修正 〈院内検査採取容器一覧〉 ・ 院内採血管→院内検査採取容器一覧に変更 〈微生物検査採取容器一覧〉 ・ 微生物試験管→微生物検査採取容器一覧に変更
		<p>緊急検査室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LD・ALP について測定原理が JSCC 標準化対応法から IFCC 標準化対応法に変更
13	改版 2020/09/02	<p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3. 検査依頼方法>依頼紙の置き場所を追記、針刺し事故後の検査依頼方法についてホームページ名を追記 ・ 3. 検査依頼方法>【検査部】【夜間・休日緊急検査】【輸血部】オーダーリングシステムがダウンした場合の依頼端末上にある依頼用紙の各名称を変更 ・ 8. 検査後の検体保管>生化学・免疫検査:1週間→6日間に変更
		<p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10. 追加・再検査>追加検査可能期間の検査項目により異なるものを凝固線溶検査→血清以外を用いた検査に変更 〈検査項目リスト〉 ・ Cobas e801 に HCG および β HCG を追加 (生化学検査室、夜間・休日緊急検査室) ・ AIA-2400 の HCG および β HCG を削除 (生化学検査室) ・ 23. HCG 妊婦基準値、24. β HCG 妊婦基準値を追加
14	改版 2020/11/02	<p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 8. 検査後の検体保管>微生物検査室の検体保管期間を変更 11. 個人情報の保護に関する検査室の方針を追記
15	改版 2020/12/25	<p>生化学検査室</p> <p>〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Cobas e801 に LH、FSH、プロラクチンおよび 25 ヒドロキシビタミン D を追加 ・ AIA-2400 の LH、FSH およびプロラクチンを削除 ・ 女性基準値を追加 25. LH、26. FSH、27. プロラクチン ・ ルミパルス L2400 の HBsAb の備考に試薬名、キャリブレーション名変更を追記
		<p>微生物検査室</p> <p>〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10. 追加・再検査>追加検査可能期間>微生物検査を修正 〈検査項目リスト〉 ・ 迅速検査に単純ヘルペスウイルス抗原を追加、インフルエンザ抗原の容器と試薬メーカーを修正

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第 24 版

Page 32 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<ul style="list-style-type: none"> ・微生物遺伝子検査にウイルス・細菌核酸多項目同時検出を追加 〈微生物検査採取容器一覧〉 ・番号 7. 8. 9. 11 の検査対象に検査項目を追記 ・番号 10 の検査対象に検査キット名を追記 ・番号 11 を VZV 抗原検査採取キット→抗原検査キットへ変更
		<p>遺伝子検査室 〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SARS-CoV-2 核酸検出に検査コード、材料「唾液」、容器「31」を追加 ・ 〈院内検査採取容器一覧〉 ・ 番号 31 に専用容器/nCoV を追加
		<p>一般検査室 〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2. 有形成分分析検査>尿沈渣鏡検に単位、試薬と所要時間を追加 ・ 6. 穿刺細胞数検査の単位を修正（単核細胞→単核球、多核細胞→多型核球）
		<p>夜間・休日緊急検査室 〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6. 感染症検査（用手法）に SARS-CoV-2 抗原を追加、インフルエンザウイルスの試薬メーカー名に「富士レビオ」を追加 ・ 7. 穿刺細胞数検査の単位を修正（単核細胞→単核球、多核細胞→多型核球） ・ 12. 遺伝子検査（Smart Gene）SARS-CoV-2 核酸検出を追加 <p>〈院内検査採取容器一覧〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 番号 32 に専用容器/CoV 核を追加
		<p>生理検査室 〈検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血圧脈波検査、終夜睡眠ポリグラフィ検査、下肢静脈超音波検査の測定機器メーカーを変更
16	改版 2021/07/26	<p>病理部 〈検体採取マニュアル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8. 検査後の検体保管に追記 <p>生化学検査室 〈院内検査項目リスト〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LUMIPULS L2400 に IRI、TES、TPOAb、TgAb、Cpep、CA19-9、活性型レニン定量、アルドステロンを追加 ・ AIA-CL2400 を削除 ・ Cobas8000 から CA19-9、Tg を削除、IL-6 を追加 ・ HLC-723 G8 を削除、G11 へ機器更新 ・ BM8040 に LRG を追加

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 33 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<ul style="list-style-type: none"> ・ Dimension EXL 200 に AMK、TOBR、GENT を追加 <院内検査採取容器一覧> <ul style="list-style-type: none"> ・ 13：黒、14 黒(4.5mL)の採取容器を変更
		一般検査室 <検体採取マニュアル> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7. 検体の搬送の 2) 検査室業務時間にて一般検査室を修正
		<検体採取マニュアル> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3. 検査依頼方法に追記と修正 <検査項目リスト> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名称を院内検査項目リストに変更
17	改版 2021/10/25	超音波診断センター <検体採取マニュアル> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7. 検体の搬送の 4) 検体搬送条件に超音波診断センターを追記 <院内検査項目リスト> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生理検査室の 3. 生理検査室/超音波 測定機器メーカーを変更
		血液検査室 <院内検査項目リスト> <ul style="list-style-type: none"> ・ 骨髓像参考基準値を変更
		一般検査室 <検体採取マニュアル> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6. 検体の採取のクレアチンクリアランスについて検体分注時の注意点を追記 <院内検査項目リスト> <ul style="list-style-type: none"> ・ 尿定性検査の色調、穿刺液細胞数（髄液細胞数）の基準値変更 ・ 精液検査の精子奇形率を追加
		緊急検査室 <院内検査項目リスト> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6. 感染症検査（用手法）について採取量追加、容器番号に「微」を付記、メーカー名を正式名称に変更、RSV/hMPV の検査コードを統合、SARS-CoV-2 抗原所要時間を 30 分→40 分に変更 ・ 7. 穿刺液細胞数（髄液細胞数）の基準値変更
		微生物検査室 <検体採取マニュアル> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3. 検査依頼方法>オーダーリングシステムがダウンした場合>【検査部/検体検査】より「新型コロナウイルス検査」「血培専用」を削除。 ・ 6.検体の採取>微生物検体の〈便〉を変更 <院内検査項目リスト> <ul style="list-style-type: none"> ・ 採取量、基準範囲又は臨床判断値、単位、追記・修正 ・ 容器番号に「微」を付記 ・ メーカー名を正式名称に変更

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 34 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p><微生物検査採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・採取量を修正、追記(容器番号3、5) ・容器2、5に対応する迅速抗原検査を追記 ・容器7~9の検査対象修正 ・容器7~12の採取量の変更 <p>生化学検査室 <院内検査項目リスト></p> <p>それぞれ1:「基準範囲または臨床判断値」、2:「単位」を以下のように変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10. 生化学検査室/GA08 尿糖 1:「-」→「設定なし」、2:「g/day」→「随時尿:g/dL, 24H 蓄尿:g/day」 ・U-ALB 1:「2.60~16.60」→「随時尿:設定なし 24H 蓄尿:2.60~16.60」、2:「mg/day」→「随時尿:mg/dL 24H 蓄尿:mg/day」 ・U-Mg 1:「120~130 mg/day (24時間蓄尿)」→「随時尿:設定なし 24H 蓄尿:120~130」、2:「mg/dL」→「随時尿:mg/dL, 24H 蓄尿:mg/day」 ・U-Ca 1:「0.1~0.4 g/day」→「随時尿:設定なし 24H 蓄尿:0.1~0.4」、2:「g/day」→「随時尿:mg/dL, 24H 蓄尿:g/day」 ・U-NAG 1:「1.6~15.0 U/g・crea」→「随時尿:設定なし 24H 蓄尿:1.6~15.0」、2:「U/L」→「随時尿:U/L, 24H 蓄尿:U/g・crea」 ・U-IP 1:「0.3~2.2 g/day (24時間蓄尿)」→「随時尿:設定なし 24H 蓄尿:0.3~2.2」、2:「mg/dL」→「随時尿:mg/dL, 24H 蓄尿:g/day」 ・U-UN 1:「6~18 g/day」→「随時尿:設定なし 24H 蓄尿:6~18」、2:「g/day」→「随時尿:mg/dL, 24H 蓄尿:g/day」 ・U-UA1:「0.25~1.0 g/day」→「随時尿:設定なし 24H 蓄尿:0.25~1.0」、2:「mg/dL」→「随時尿:mg/dL, 24H 蓄尿:g/day」 ・U-Cre1:「1.0~1.5 g/day」→「随時尿:設定なし 24H 蓄尿:1.0~1.5」、2:「mg/dL」→「随時尿:mg/dL, 24H 蓄尿:g/day」
18	改版 2022/02/21	<p>病理部 <検体採取マニュアル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・7.検体の搬送>4) 検体搬送条件>病理部受け入れ不可基準の迅速組織検査の項を変更 ・8.検査後の検体保管の細胞診検査:6カ月→2カ月、ガラス標本は14年保存→10年保存に変更 <p><院内検査項目リスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規作成 <p>遺伝子検査室 <院内検査項目リスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子検査室/造血器関連腫瘍遺伝子検査>造血器腫瘍遺伝子検査の備考を変更

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
		第24版 Page 35 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p>生化学検査室 <院内検査項目リスト> ・試薬メーカーの変更 日立化成ダイアグノスティックス・システムズ→ミナリスメディカル：IP、T.CHO、TG、LA、PA、U-IP ミズホメディー→ミナリスメディカル：HDL-C、LDL-C デンカ生研→ニッターボーメディカル：U-ALB、L-ALB エーディア→積水メディカル：PIVKA-2、KL-6 デンカ生研→デンカ：Mb DS ファーマバイオメディカル→SB バイオサイエンス：WholePTH 和光純薬→富士フィルム和光純薬：AFP-L3%</p> <p>緊急検査室 <院内検査項目リスト> 試薬メーカーの変更 ・協和メディックス→ミナリスメディカル：IP ・日本電子→A&T：Na、K、Cl ・デンカ生研→デンカ：Mb SARS-CoV-2 核酸検出：所要時間：60分→75～90分 検査コードの変更</p> <p>血液検査室 <検査項目リスト> ・リンパ球サブセット検査の基準範囲または臨床診断値の変更</p> <p>微生物検査室 <検体採取マニュアル> ・7.検体の搬送>2) 検査室業務時間と場所>微生物検査室の業務時間と検体受付時間を変更 <院内検査項目リスト> ・検査項目「SARS-CoV-2 核酸検出」を「SARS-CoV-2 核酸検出 (BD MAX)」に修正 ・検査項目「SARS-CoV-2 核酸検出 (GeneXpert)」を追加 <微生物検査採取容器一覧> ・容器番号12「汎用輸送培地」の検査対象において SARS-CoV-2 核酸検出(BD)→「SARS-CoV-2 核酸検出(BD MAX)」に修正、「SARS-CoV-2 核酸検出(GeneXpert)」を追加</p>
19	改版 2022/09/01	<p><検体採取マニュアル> ・3.検体依頼方法>○オーダーリングシステムがダウンした場合>【病理部】：記載変更。 ・6.検体の採取>○「血液採取」を追記。 ・6.検体の採取>○採血管の使用順序>②「凝固検査用」を「凝固線溶検査用」に修正。④「(紫)」を「(赤・紫)」へ変更。</p>

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 36 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<ul style="list-style-type: none"> ・6.検体の採取>○検体採取における注意事項に「穿刺液」および「悪性腫瘍（固形腫瘍）遺伝子検体」を追加。 ・7.検体の搬送>2) 検査室業務時間（検体受付時間）と場所>【検査部/生化学・血液・遺伝子検査室】：場所に「ゲノム医療総合検査室（入院棟東3階）」を追加。【病理部/病理迅速検査室・細胞診受付】：記載変更。【病理部受付/病理標本処理室】：【病理部/病理組織受付】へ名称変更。 ・7.検体の搬送>4) 検体の搬送条件>6)「血液凝固」を「凝固線溶」に修正。 ・7.検体の搬送>4) 検体の搬送条件>一般検査室受入れ不可基準に「関節液検査」を追加。 ・8.検査後の検体保管：「病理検査」から「病理組織検査」へ変更。「病理診検査：2ヶ月（細胞保存液）」から「診断確定後廃棄」へ変更。「関節液結晶検査」を追加。 ・10.追加・再検査>○追加検査>①：追加検査可能期間>生化学免疫検査：「当日中（血清以外の検体を用いた検査）」を削除。 ・10.追加・再検査>○追加検査>②：「ラベル出力先指定を自科に選択し」を削除。 ・12.問い合わせ先：「7573（ゲノム医療総合検査室）」を追加。 <p><院内検査項目リスト></p> <p>○生化学検査室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1.生化学検査室/BM8040：P-AMY、AMY、UN、HDL-C、LDL-Cの備考に試薬変更日時を記載。ZNSの社名を変更。 ・2.生化学検査室/BM6050：U-TP、U-BMGの基準範囲または臨床判断値および単位に24H蓄尿を追加。U-UNの備考に試薬変更日時を記載。 ・4.生化学検査室/LUMIPULSE L2400：検査項目「SCC」を追加。WholePTHの社名を変更。 ・6.生化学検査室/ARCHITECT i2000 から 6.生化学検査室/ARCHITECT i2000SRへ変更。 ・7.生化学検査室/Phadia250：総IgE、ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ハウスダスト1、ハウスダスト2、ネコ皮膚、イヌ皮膚、動物上皮、ハンノキ、スギ、ヒノキ、ブタクサ、ヨモギ、ハルガヤ、カモガヤ、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、トリコフィトン、カビ、卵白、ミルク、小麦、米、ソバ、大豆、カニ、エビ、サバ、卵黄、鶏肉、オボムコイド、ピーナッツ、カゼイン、グルテン、チーズ、ω-5グリアジン、 <p>ゴキブリ、ユスリカ、ガを検査項目より削除。</p> <p>○遺伝子検査室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2.遺伝子検査室/遺伝子検査から 1.遺伝子検査室/病原体核酸検査へ変更。

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 37 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<ul style="list-style-type: none"> ・1.遺伝子検査室/造血器関連腫瘍遺伝子検査から 2.遺伝子検査室/造血器腫瘍遺伝子検査へ変更。 ・3. 遺伝子検査室/悪性腫瘍（固形腫瘍）遺伝子検査を追加。 ・4. 遺伝子検査室/薬剤応答遺伝子検査を追加し、2.遺伝子検査室/遺伝子検査中の UGT1A1*28, *6 遺伝子多型解析をこちらに移動。 ○一般検査室 <ul style="list-style-type: none"> ・1. 一般検査室/尿定性検査（US-3100Rplus）から 1. 一般検査室/尿定性検査（US-3500）へ変更。必要量 1mL を追記、所要時間を至急検査検体と通常検体を分けて表記。 ・2. 一般検査室/有形成分分析検査（UF-1000i）から一般検査室/有形成分分析検査（UF-5000）へ変更。必要量 5mL を追記、円柱の単位を WPF に変更。所要時間を至急検査検体と通常検体を分けて表記。 ・3. 一般検査室/便へヘモグロビン(OC-SENSOR): 所要時間を至急検査検体と通常検体を分けて表記。 ・4. 一般検査室/ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン定性測定: 所要時間を 30 分以内に変更。 ・6. 一般検査室/穿刺細胞数検査（目視法）: 所要時間を髄液とそれ以外に分けて表記。 ・7. 一般検査室/関節液結晶検査を追加。 ○微生物検査室 <ul style="list-style-type: none"> ・4. 微生物検査室/迅速検査: SARS-CoV-2 抗原検査材料追加に伴い追記。 ・5. 微生物検査室/微生物遺伝子検査: 微生物検査採取容器の容器番号 8~12 の変更に伴い該当箇所修正。 ○夜間・休日緊急検査室 <ul style="list-style-type: none"> ・2. 夜間・休日緊急検査室/生化学検査（BM8040）: AMY、UN の備考に試薬変更日時を記載。 <p><院内検査採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・番号 12 のラベル表示を変更。採取容器について赤を追加。 ・番号 13 の採取容器を変更。 ・番号 33 を追加。 <p><微生物検査採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器番号 1: 血液培養ボトルの容器名称欄を蓋と同じ色で塗りつぶした。 ・容器番号 3: 検査対象に SARS-CoV-2 抗原を追加。 ・容器番号 8~12: 鼻咽頭用の乾燥綿棒の容器番号を 8 と 9 で割り振っていたが 8 に統合。それに伴い容器番号 10、11、12 を 9、10、11 に変更。 ・容器番号 11: 「汎用輸送培地」から「ウイルス輸送液」へ名称

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 38 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		変更。容器変更に伴い写真差し替え。
20	改版 2022/12/1	<p><院内検査項目リスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生化学検査室 <ul style="list-style-type: none"> ・3.生化学検査室/cobas8000：コルチゾールの基準範囲を変更。 ○微生物検査室 <ul style="list-style-type: none"> ・5.微生物検査室/微生物遺伝子検査：SARS-CoV-2 核酸検出 (BD MAX) の所要時間を変更。 ○夜間・休日緊急検査室 <ul style="list-style-type: none"> ・13.夜間・休日緊急検査室/遺伝子検査 (cobas Liat) を追加。 <p><院内検査採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・番号 32 のラベル表示を変更。 ・番号 34 を追加。
21	改版 2022/12/28	<p><院内検査項目リスト></p> <p>「基準範囲または臨床判断値の出典元」を追記</p> <p><微生物検査採取容器一覧>は修正無し</p> <p>生化学検査室</p> <p><検査項目リスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・TSH の基準範囲または臨床判断値を変更 <p><院内検査採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器番号 6 専用/PA・LA を変更 <p>遺伝子検査室</p> <p><検査項目リスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子検査「1. 遺伝子検査室/病原体核酸検査」に「CMV 核酸定量」を追加 ・基準範囲または臨床判断値の「該当なし」を「設定なし」に変更 ・試薬メーカー名の「ロッシュ」を「ロシュ・ダイアグノステイックス」に変更 <p><院内検査採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器番号 35 に青：EDTA-2K (分離剤入り) を追加 <p>生理検査室</p> <p><検体採取マニュアル></p> <p>4.検査項目に関する情報 追記</p> <p>生理検査室・超音波診断センター受け入れ不可基準修正</p> <p><院内検査項目リスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生理検査室 <ul style="list-style-type: none"> 1.生理検査室/循環器・肺機能 <ul style="list-style-type: none"> ・1 週間ホルター心電図項目追加 ・呼吸機能検査名略称追加

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》
検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
	第24版 Page 39 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<ul style="list-style-type: none"> ・所要時間修正 ○生理検査室基準範囲 ・生理学的基準範囲又は臨床判断値および出典元追加 ・経食道超音波削除
22	改版 2023/5/19	<p><検体採取マニュアル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5.採取前の検体準備：○外来・病棟の項を削除。 ・6.検体の採取>○採血管の使用順序（真空採血の場合）> ④EDTA入り採血管（赤・紫）の「紫」を削除。
		<p><院内検査項目リスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生化学検査室 1.BM8040：クレアチニン試薬を「シノテスト」へ変更。 2.BM6050：尿-クレアチニン試薬を「シノテスト」へ変更。 17.Smart Gene を削除。 ○一般検査室 2.有形成分分析検査（UF-5000）：「円柱」の項を削除 6.穿刺細胞数検査（目視法）：単位を「個/mL」から「個/μL」に修正。 ○輸血部 3.移植関連検査（Navios EX）：CD34 抗原定量の採取量（必要量）を「2mL」に変更。 ○夜間・休日緊急検査室 2. BM8040：クレアチニン試薬を「シノテスト」へ変更。
		<p><院内検査項目リスト採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> 7.ラベル表示を「赤専用/β DG」に変更。 12.ラベル表示を「赤」に変更。
23	改版 2023/6/29	<p><検体採取マニュアル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5.採取前の検体準備：○中央採血室の項を削除。 ・7. 検体の搬送 2) 検査室業務時間（検体受付時間）と場所 検査室名：「遺伝子検査室」→「遺伝子・ゲノム融合推進検査室」に変更。 場所：「遺伝子検査室（総合診療棟西6階）、ゲノム医療総合検査室（入院棟東3階）」→「遺伝子・ゲノム融合推進検査室（中央診療棟3階）」に変更。 ・12. 問い合わせ先 「遺伝子検査室：7666、7573（ゲノム医療総合検査室）」→ 「遺伝子・ゲノム融合推進検査室：7666（遺伝子）、7573（ゲノム）」に変更。
		<p><院内検査項目リスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生化学検査室（その他） クレアチニンクリアランス：短時間法（1回法、2回法）削除。 ○遺伝子・ゲノム融合推進検査室

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 40 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p>検査室名:「遺伝子検査室」→「遺伝子・ゲノム融合推進検査室」に変更</p> <p>○微生物検査室</p> <p>①新規検査項目追加 ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄膜炎・脳炎パネル)</p> <p>②変更検査項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RSV、hMPV 個別オーダーを廃止→2項目同時測定試薬に変更。 ・CDトキシン抗原:項目名称変更「クロストリジウムディフィシル抗原」→「CDトキシン抗原」、試薬メーカー変更「アボットジャパン合同会社」→「株式会社ミズホメディー」 ・尿中レジオネラ抗原:試薬メーカー変更「アボットジャパン合同会社」→「極東製薬工業株式会社」 ・尿中肺炎球菌抗原:試薬メーカー変更「アボットジャパン合同会社」→「栄研化学株式会社」 ・A群連鎖球菌抗原 試薬メーカー変更「積水メディカル」→「アボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社」、所要時間「20分」→「10分」 ・SARS-CoV-2 抗原(鼻咽頭拭い):所要時間「50分」→「30分」 ・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出:検査項目名称を「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(呼吸器パネル)」へ変更。 <p>○生理検査室基準範囲</p> <p>①頰動脈超音波の測定機器メーカーの追加:富士フィルムヘルスケア株式会社</p> <p>②腎動脈超音波の出典元:「超音波基準値資料(文書番号:GAIB-PHY-ECHO-L2)」を削除。</p> <p>○夜間・休日緊急検査室</p> <p>①変更検査項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿中肺炎球菌抗原:試薬メーカー変更「アボットジャパン合同会社」→「栄研化学株式会社」 ・A群連鎖球菌抗原 試薬メーカー変更「積水メディカル」→「アボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社」、所要時間「20分」→「10分」 <p><院内検査項目リスト採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器番号19.:容器を変更。 ・容器番号29.:提出場所「微生物」→「生化学」に変更。 ・容器番号33.:提出場所「ゲノム医療総合検査室」→「遺伝子・ゲノム融合推進検査室」に変更。 <p><微生物検査採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器番号2.:検査対象「クロストリジウムディフィシル抗

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1

第24版
Page 41 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		原」→「CD トキシン抗原」へ変更。 ・容器番号 5.: 検査対象「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄膜炎・脳炎パネル)」を追記。 ・容器番号 11.: 検査対象「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(FilmArray)」→「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(呼吸器パネル)」に変更。
24	改版 2024/3/26	<p><検体採取マニュアル></p> <p>○病理部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8. 検査後の検体保管に追記 <p>○輸血部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6. 検体の採取 <p>検体採取における注意事項 追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7. 検体の搬送 4) 検体搬送条件 ○検体検査全般に関する検体受付時の確認事項 <p>2) 「漏れ等がないか」→「漏れ等がなく」に変更</p> <p><院内検査項目リスト採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出場所に「検査室」および「部」をつけて記載 <p><微生物検査採取容器一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象検査名称: 「抗原検査・遺伝子検査」追記 ・2. 抗原検査・遺伝子検査: 「大腸菌 0-157 抗原」削除 ・3. 容器名称: 「喀痰採取容器」追加 材料: 「気管支など」削除 採取量: 「迅速検査は 1mL」削除 抗原検査・遺伝子検査: 「SARS-CoV-2 抗原」「術前入院前検査」削除 ・4. .容器名称: 「培地付き綿棒」追加 抗原検査・遺伝子検査: 「培養検査のみ」(迅速検査に使用不可) 削除 ・容器名称: 「滅菌スクリースピッツ」→「滅菌スピッツ」に変更 採取量: 「迅速検査は 1mL」→「培養以外 1mL 以上」に変更 ・5. 6. 材料: 「気管支洗浄液」追加 ・7. 容器名称: 「乾燥綿棒」追加 ・全削除 8. 9. 10. 11 ・新たに追加 8. 容器名称: 「鼻・皮膚用 乾燥綿棒」追加 写真・材料・採取量・対象検査 記載 9. 容器名称: 「ウイルス 輸送液」追加 写真・材料・採取量・対象検査 記載 <p><院内検査項目リスト></p> <p>○生化学検査室</p> <p>2.生化学検査室/BM6050</p> <p>RF について試薬メーカー、測定単位を変更。シスタチン C について試薬メーカー、基準範囲を変更。</p>

岡山大学病院 臨床検査部門	作成日:2024年3月12日 使用開始日:2024年3月26日 《第1版使用開始日:2014年7月28日》	
	検体採取マニュアル(2012)	文書番号 QMS5.4-1
		第24版 Page 42 / 43

版数	改版年月日	改版事項
		<p>16・生化学検査室/凝固・線溶検査 (CS-5100) APTTについて試薬変更に伴い、基準範囲および基準範囲の出典先を変更。</p> <p>○微生物検査室</p> <p>1.微生物検査室／一般細菌検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査項目:「血液培養検査」追加 容器:「微1」採取量:「8~10mL (小児ボトルは1~5mL) 記載 ・塗抹標本 試薬:「日水製薬」→「島津ダイアグノスティクス株式会社」に変更 <p>2.微生物検査室／真菌検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗抹標本 試薬:「日水製薬」→「島津ダイアグノスティクス株式会社」に変更 <p>3.微生物検査室／抗酸菌検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査項目:「核酸同定」削除 <p>4.微生物検査室／迅速検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査項目:「大腸菌 O-157 抗原」削除 ・検査項目:「インフルエンザウイルス抗原」容器:「微9」→「微8」に変更 試薬:「富士レビオ」削除 所要時間:「20分」→「15分」に変更 ・検査項目:「水痘・帯状疱疹ウイルス抗原」容器:「微10」→「微8」に変更 ・検査項目:「単純ヘルペスウイルス抗原」容器:「微10」→「微8」に変更 試薬:「マルホ」→「アルフレッサファーマ」に変更 ・検査項目:「SARS-CoV-2 抗原 (鼻咽頭拭い)」の (鼻咽頭拭い) を削除 容器:「微10」→「微8」に変更 所要時間:「30分」→「15分」に変更 ・検査項目:「SARS-CoV-2 抗原 (唾液)」削除 <p>5.微生物検査室／微生物遺伝子検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査項目:「SARS-CoV-2 核酸検出 (BD-MAX)」 「SARS-CoV-2 核酸検出 (GeneXpert)」 「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 (呼吸器パネル)」 容器:「微11」→「微9」に変更 <p>夜間・休日緊急検査</p> <p>6.夜間・休日緊急検査室/感染症検査 (用手法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査項目:「インフルエンザ」容器「微10.11」→「微8」に変更 試薬:「富士レビオ」削除 所要時間:「20分」→「15分」に変更 ・検査項目:「SARS-CoV-2 抗原」容器「微11」→「微8」に変更 試薬:「富士レビオ」→「ミズホメディール」に変更 所要時間:「35分」→「15分」に変更

